

規格外野菜の販売体験を通じて お金や商品の大切さを学ぶ(1)

今井 一馬 Imai Kazuma 東京都武蔵村山市立第十小学校 副校長

岐阜県でICT関連の業務に10年ほど就業後、東京都の教員に転職。社会科や総合的な学習の時間を中心に実践を積む。現在は管理職として、学校と地域との橋渡し役を担う

活動のきっかけ

本校の放課後の職員室には、児童に関して、地域からさまざまな連絡が寄せられます。その中でも「お菓子などのおごり、おごられ」に関するものが多く、児童が大切なお金を安易に消費してしまい、それにより友達関係にまでひびが入ってしまうことが問題となっていました。

この問題を解決するために、児童自身がお金や消費について理解を深めることが必要であると考えました。そこで2022年度、5・6年生を対象に「児童による販売体験プロジェクト」を進めることとしました。

販売体験の設定に当たって

①行事の再編から新たな行事を生み出す

コロナ禍により、学校行事は大きな転換点を迎えましたが、本校ではこの機会をチャンスととらえ、行事の効率化を図りました。その中で生み出された7月の枠に、「十小夏まつり」として児童による販売体験が可能な行事を組み込み、実現に向けて計画を進めていきました。

②実行に向けた理解と協力

この新たな企画の遂行は、必ずしも順風満帆というわけではありませんでした。

当初、教員からは「現金を授業で扱わせるのは、小学校段階では早過ぎる」という意見も寄せられました。これに対しては「18歳成人となり、早い段階からの消費者教育が必要であること」「消費者教育を進める教科として、体系的・体験的に学ぶことができる総合的な学習の時間が適してい

ること」などを丁寧に説明し、企画の必要性と消費者教育への理解を求めていきました。

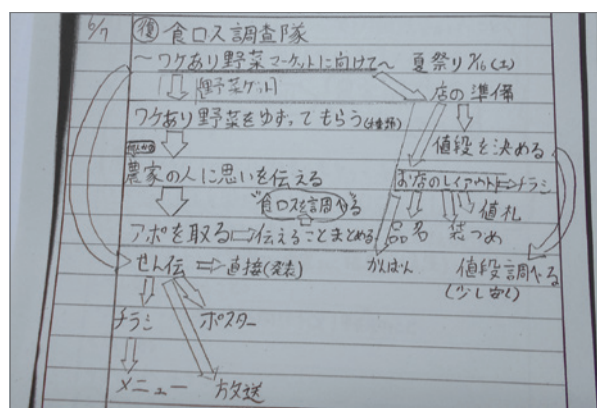
また、販売時のお金の管理についても、心配の声が上がりました。児童の販売する各ブースに大人の目は必要だという結論に達し、PTAに協力を依頼したところ、快く引き受けてくださいました。

さらに、PTAには資金(各学級1万円)も出資していただいたので、それをどのように使っていかを各学級で話し合う流れとしました。これにより「原材料費に付加価値や利益などを付け、商品の価格をいくりに設定するか」などの学習を展開できると考えました。

規格外野菜を商品に

販売体験の舞台は、いくつかの波を乗り越えて整えることはできましたが、どのような商品をそろえるかは、児童にとって大きなチャレンジでした。6年生は、総合的な学習の時間で「食品ロス」について学んでいたため、地域の農作物のロスに目が向けられていきました(写真1)。

写真1 児童の考えたワークフロー図



①地域の農家から学ぶ

3年生の社会の授業で、地域の畑に見学に行ったことがあり、多くの児童はその時のことを覚えていました。そこで、地域の農家に児童自身が電話をかけ、学校で地域野菜の現状について教えてほしいと依頼しました。来校した農家の方の授業で、児童は初めて規格外野菜の実情を知ることになりました(写真2)。

規格外野菜は「小さ過ぎる」「大き過ぎる」「形が悪い」などの理由で店頭に並ばず、捨てられている現実がありました。できる限りB級品として売る努力をしていますが、小さな農家では流通させるルートがないとのことでした。

児童からの「規格外野菜は味が違うんですか?」という質問に、農家の方からは「味はまったく変わらずおいしいけれど、小さ過ぎると調理がしにくいし、大き過ぎると使い切れないなどの理由で食べてもらえない」と教えていただきました。児童は、おいしく食べられる野菜が捨てられている状況を目の当たりにし、強く問題意識を持ちました。

②規格外野菜の販売に向けて

農家から学んだことで「規格外野菜の廃棄をなくしたい」という思いが固まり、その解決方法として「規格外野菜の販売」という方向で進んでいきました。規格外野菜の調達は、授業をしていただいた農家に加え、児童の依頼により、さらに農家2軒の協力を得ました。

しかし、販売の経験がまったくない児童にとっては、ここからが大変です。販売ブースのレイアウトや各種表示、商品の価格決定など、未経験なことに戸惑いながらも、普段の授業では味わえない課題にワクワクしながら取り組んでいました。特に販売する野菜の価格決定に向けては、近所のスーパーで野菜の価格を調べました。保護者と買い物に行く際に、野菜の価格をメモし、それがグラム当たりの金額から価格を設定する根拠となりました。児童にとって、

写真2 地域の農家から話を聞く児童



写真3 野菜の価格を調べた児童のメモ

<食ロスについて調べてみよう!>
・消費者は食ロス削減の工夫をしているか。
あまり工夫をしていない
・人参の1kgの平均価格は128円
・大根1kg平均96円
・きゅうりは1kg平均275円
・キャベツは1kg平均106円
・トマトは1kg平均151円

お金や商品と真剣に向き合う貴重な機会となりました(写真3)。

③販売体験を明日に控えて

販売体験を行う「十小夏まつり」の前日、日持ちするじゃがいもなどの根菜類を、算数で学んだばかりを用い、重さや個数を計算して袋詰めを行いました。そして、考えた末に設定した価格の値札を付けて、販売に備えました。スーパーに並んでいる野菜と同じように、自分たちでビニール袋に詰めるだけでも、お客様に買ってもらう商品を扱っている緊張感がありました。

日持ちしないきゅうりなどは、当日朝に入荷し、袋詰めすることになりました。すぐに並べられるように、販売ブースの用意をすべて終わらせておきました。児童も教員も初めての体験に、期待と不安が入り交じる心境で当日を迎えました。(販売体験当日以降は次号に続く)